日本医学会総会2015関西について

資 料

- ① 第29回日本医学会総会2015関西との連携事業の提案
- ② <参考資料>「第29回日本医学会総会2015関西」

第29回日本医学会総会 2015 関西との連携事業の提案



第29回日本医学会総会 2015 関西 組織委員会

提案の趣旨

日本医学会総会は、明治35年に第1回が開催され、それ以降4年ごとに国内の医学・医療関係者が一堂に会し、 最新の医学・医療の課題を議論し発信する医学・医療に関する日本最大のイベントです。

そのために、第29回日本医学会総会 2015 関西では、「医学と医療の革新を目指して -健康社会を共に生きるきずなの構築-」をメイン テーマに医学・医療関係者と一般市民が集い、直面している課題について開かれた議論ができる場を提供し、 我が国は、少子超高齢社会に突入しつつあり、より良い医療を提供するための転換点を迎えています。 職種と世代を超えて共に行動のきっかけとなる新しい日本医学会総会をめざしています。 そのために、今までの日本医学会総会が開催都市に限った展開であったことを超え、初めて「関西」という広域での開催に取り組んでおり、 関西の経済界・行政と連携し、開催効果を広く関西全体で共有し連携する事業を行いたいと考え提案いたします。

連携事業の意義としては、

関西エリアの府県民、経済団体の社員、家族の方々に日本医学会総会の一般市民向けプログラムを活用していただき、 **関西の行政・企業にとっても増え続ける医療・介護費用への対応は、喫緊の解題であり、** 健康知識とその意識・意味への理解を進展し行動の誘発をめざします。

併せて、関西におけるライフサイエンス分野の産業は、各府県および各経済団体様のご尽力を得て、

国際競争力の強化など産業振興の数々の取組みが始まり、

国による「スプリング8」やスーパーコンピューター「京」の稼働、PMDA関西支部の開設など研究開発基盤の整備も進み、 今春の国家戦略特区認定でさらに進展が期待されています。

国家戦略特区認定と日本医学会総会の開催で関西エリアに耳目が集まる機会を活用し、

ライフサイエンス分野における関西のポテンシャルを医学・医療関係者はもとより、国内外の企業に向けて、 関西を集約して情報発信する絶好の機会としたいと考えています。

明日の医学・医療の在り方について議論を深め、健康社会の実現に資する医療産業の発展を推進していきたいと考えております。 これらの連携事業を契機として、関西エリアの産業界と医学・医療関係者との交流を促進し、

₩ ₩ ジャパン・メディカル・イノベーション 2015 関西

・関西エリアの医学、医療および医療産業のポテンシャルと可能性を議論し発信 ■目的

関西を中心に医学・医療関係者と関西エリアの行政・産業界との連携の促進

・市民の健康知識の向上と健康意識の啓発による、関西エリアからの健康社会の実現

ジャパン・メディカル・イノベーション 2015 関西 実行委員会 ■主催 構成団体:関西広域連合、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所、京都商工会議所、神戸商工会議所

第29回日本医学会総会 2015 関西 組織委員会、関西サイエンスフォーラム

为閣府、厚生労働省、経済産業省、文部科学省、日本経済新聞社ほか(予定) 後援

企業、 回体 協賛

1) 大限 いの イベント

国公司

: 蛤田 場所:

2015年3月20日(金)~22日(日)

グランフロント大阪

①シンポジウム

構成:





関西サイエンスフォーラム様と連携し、国内外から医学・医療関係の専門者を招き

関西エリアを中心に先進的取り組みを紹介し、将来への可能性や課題を議論 経済産業省「新たなヘルスケアサービス創出事業」などと連携した交流会 一般市民と各団体の社員、家族向けに健康社会づくりの大切さを啓発

2) 日本医学会総会会場への参加

③ アジャストッチングイベント

2市民向けイベント

学術展示(京都)での展示

学術講演(京都)での特別受講枠の提供

3) 新聞紙面での全国に向けた関西情報発信

上記シンポジウムを日本経済新聞社で採録記事掲載





広告スペース 協賛企業

参加団体の負担金と企業協賛の広告費 ■事業費

第29回日本医学会総会 2015 関西



医学と医療の革新を目指して 一健康社会を共に生きるきずなの構築―

第29回日本医学会総会 2015 関西 組織委員会

名 称

第29回日本医学会総会 2015 関西

会 頭

井村 裕夫(京都大学名誉教授、元京都大学総長)

副会頭

本庶 佑 (京都大学名誉教授)

山岸 久一(京都府特別参与、前京都府立医科大学学長)

平野俊 (大阪大学総長)

高井 義美 (神戸大学医学部特命教授)

森 洋一 (京都府医師会会長)

準備委員長

三嶋 理晃 (京都大学副学長・病院長)

幹事長

平井 豊博 (京都大学)

顧 問

横倉 義武 (日本医師会会長) 坂本 すが (日本看護協会会長)

湊 長博 (京都大学医学部研究科長) 吉川 敏一 (京都府立医科大学学長)

塩田 浩平 (滋賀医科大学学長)

橋本 信夫 (国立循環器病研究センター理事長・総長)

乾 賢一 (京都薬科大学学長) 我部山 キヨ子(京都大学医学部教授)

主催機関

〇主 催:日本医学会

○実行機関:第29回日本医学会総会 2015 関西

〇主務機関:京都大学医学部、京都府立医科大学、大阪大学医学部、神戸大学医学部、

滋賀医科大学、大阪市立大学医学部、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、

関西医科大学、大阪医科大学、近畿大学医学部、兵庫医科大学、

国立循環器病研究センター、京都府医師会、大阪府医師会、兵庫県医師会、

滋賀県医師会、奈良県医師会、和歌山県医師会

〇協力機関:日本病院会、日本医療法人協会、全国自治体病院協議会、全日本病院協会、

日本精神科病院協会、日本薬剤師会、日本薬学会、日本医療薬学会、

日本ジェネリック医薬品学会、日本看護協会、日本看護科学学会、

日本看護管理学会、日本老年看護学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、

日本循環器看護学会、日本歯科医師会、日本歯科医学会、日本診療放射線技師会、

日本放射線技師教育学会、日本放射線公衆安全学会、日本理学療法士協会、

理学療法科学学会、日本作業療法士協会、日本職業リハビリテーション学会、

日本臨床工学技士会、日本臨床衛生検査技師会、日本栄養士会、

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会、日本介護福祉士会、日本介護福祉学会、

日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、日本医療社会福祉協会、

日本保健医療福祉連携教育学会、日本がん看護学会、日本医療社会福祉学会、

日本認知症ケア学会、日本精神障害者リハビリテーション学会

〇後 援:日本医師会、日本学術会議、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、

国土交通省 、総務省 、環境省 、

京都府、 京都市 、大阪府 、奈良県、 滋賀県 、和歌山県、 兵庫県 、神戸市、 公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー、 京都商工会議所 、

神戸商工会議所

朝日新聞社 、毎日新聞社 、読売新聞社 、日本経済新聞社 、産経新聞社 、 京都新聞社 、神戸新聞社 、日本放送協会(NHK) 、毎日放送、 朝日放送、 テレビ大阪、 関西テレビ、 読売テレビ、 KBS京都 、エフエム京都

サンテレビジョン、 ラジオ関西、 Kiss FM KOBE

1

メインテーマ

医学と医療の革新を目指して

―健康社会を共に生きるきずなの構築―

基本理念

日本の経済成長を支えてきた団塊の世代が引退し始め、わが国はかつての人間社会が経験したことのない超高齢社会に突入しつつあります。減少傾向にある生産人口が、増加していく高齢者をどう支えるのか、医療、介護、年金などの面で大きな問題となりつつあります。少子超高齢社会のための医学・医療をどのように構築していくのかという喫緊の課題は、避けて通ることができないにもかかわらず、その解決法は見えていません。また、戦後のわが国で大きな成果を挙げてきた国民皆保険制度も、どうすればそれを持続可能なものにできるのか、すべての国民により良い医療を提供できるのか衆知を集めて考える転換期を迎えています。

いまこそ国民一人ひとりが、自分の、あるいは周囲の人々の健康をどう守るのか、どのような死生観を持つのかを考えなければなりません。より質の高い幸せな老後とは何か、いたずらに延命措置に頼ることなく、人生の最期をどう迎えるのかを考える必要があります。さらに限られた資源で多くの人の健康を守れるよう、医療の効率化も進めなければなりません。そのためには医療者と国民が強いきずなを築き、協力して幸福な社会を実現していかなければなりません。

医学の面で重要な課題は、再生医療、内視鏡手術など現在の先端医療をさらに進めると同時に、将来の方向として先制医療に目を向けなければなりません。先制医療とは、ゲノム研究やバイオマーカー(病気の進行の程度を示す指標)などの成果を生かして、種々の病気を発症前に診断し、介入治療することにより、発症を防止ないしは病状を軽減しようとする新しい医療のコンセプトです。個人情報の保護に十分配慮しながら、究極の医療の実現に向けて努力しなければなりません。

こうした医学と医療の転換点において、このたびの日本医学会総会では従来とは異なる新しい方向を打ち出していきたいと考えています。それは大学・病院の勤務医、開業医、医学生、多くのメディカル・スタッフ、そして一般市民が集い、医学・医療が直面している課題について開かれた議論ができる場を提供します。また多くの人々、とくに未来を支える青少年に最新の医学の成果を紹介する場としたいと考えています。幸福な少子超高齢社会の実現のための「医学と医療の革新を目指して」、いままさに「健康社会を共に生きるきずなの構築」ができるよう、医療者と国民が職種を超え世代を超えて共に考え共に行動することが望まれています。

日本医学会総会の沿革

| 回次 | 開催年 | 開催地 | 総裁官 | 会順 | 剛会頭 | 準備委員長 | 登録者 |
|------|-------|-----|-----------------|-------|---|------------------|--------------------------------------|
| 第1回 | 明治35年 | 東京 | 小松宫殿下 | 田口 和美 | 北里柴三郎 | 岡田和一郎 | 1,797 |
| 第2回 | 明治39年 | 東京 | 閑院宮殿下 | 北里柴三郎 | 大澤岳太郎 | 片山 國嘉 | 2,400 |
| 第3回 | 明治43年 | 大阪 | 梨本宮殿下 | 青山 胤通 | 佐多 愛彦 | 緒方 正清 | 3,397 |
| 第4回 | 大正3年 | 東京 | 伏見宮殿下 | 大澤 謙二 | 本多 忠夫 | 金杉英五郎 | 2,028 |
| 第5回 | 大正7年 | 東京 | 閑院宮殿下 | 緒方 正规 | 金杉英五郎 | 岡田和一郎 | 2,296 |
| 第6回 | 大正11年 | 京都 | 賀陽宮殿下 | 荒木寅三郎 | 伊藤 华三 | 和辻 春次 | 3,331 |
| 第7回 | 大正15年 | 東京 | | 佐藤 三吉 | 岡田和一郎 | 北島 多一 | 3,488 |
| 第8回 | 昭和5年 | 大阪 | | 佐多 愛彦 | 楠本長三郎 | 河野 徹志 | 7,020 |
| 第9回 | 昭和9年 | 東京 | | 入澤 達吉 | 長與 又郎 | 宮川 米次 | 5,717 |
| 第10回 | 昭和13年 | 京都 | | 森島 庫太 | 戸田 正三 | 星野 貞次 | 5,385 |
| 第11回 | 昭和17年 | 東京 | | 長奥 又郎 | 宮川 米次 | 東 龍太郎 | 6,233 |
| 第12回 | 昭和22年 | 大阪 | | 楠本長三郎 | 佐谷 有吉 | 岡川 正之 吉松 信寶 | 3,963 |
| 第13回 | 昭和26年 | 東京 | 天皇陛下行幸 | 田宮 猛雄 | 柿沼 吳作 | 内村 雇之 | 18,318 |
| 第14回 | 昭和30年 | 京都 | | 松本 信一 | 木村 廠 | 後藤 光治 | 30,018 |
| 第15回 | 昭和34年 | 東京 | 天皇皇后両陛下行幸啓 | 内村 雇之 | 小林 芳人 緒方 富雄 | 三木威勇治 | 30,523 |
| 第16回 | 昭和38年 | 大阪 | | 今村 荒男 | 小沢 凱夫 細谷 雄二 | 堂野前維摩郷 副:堀三津夫 | 32,259 |
| 第17回 | 昭和42年 | 名古屋 | | 勝沼 精蔵 | 神田 善吾 萩野鉚太郎 | 橋本 義雄 | 26,694 |
| 第18回 | 昭和46年 | 東京 | | 冲中 重雄 | 牛場 大蔵 (上田 英雄) | 中尾 喜久 | 22,066 |
| 第19回 | 昭和50年 | 京都 | | 平沢 興 | 中村 恒男 岡本 道雄 | 脇坂 行一 | 15,624 |
| 第20回 | 昭和54年 | 東京 | 常隆宫同妃而殿下御成 | 樋口 一成 | 高安 久雄 塚田 裕三 | 上田 泰副: 丸毛英二 | 16,422 |
| 第21回 | 昭和58年 | 大阪 | | 吉田 常雄 | 山村 雄一 大和田國夫 | 阿部 裕 | 18,432 |
| 第22回 | 昭和62年 | 東京 | 皇太子同妃阿殿下行啓 | 中尾 喜久 | 阿部 正和 森 亘 | 高久 史麿 | 18,872 |
| 第23回 | 平成3年 | 京都 | | 岡本 道雄 | 佐野 晴洋 佐野 豊 | 井村 裕夫 | 32,585 |
| 第24回 | 平成7年 | 名古屋 | | 飯島 宗一 | 加藤 延夫 武内 俊彦 | 齊藤 英彦 | 28,946 |
| 第25回 | 平成11年 | 東京 | 天皇皇后而陛下行幸啓 | 高久 史麿 | 伊藤 正男 吉岡 守正 小泉 明 | 矢崎 義雄 | 26,125 |
| 第26回 | 平成15年 | 福岡 | 皇太子殿下行啓 | 杉岡 洋一 | 平野 実 片山 仁 | 名和田 新 | 33,154 |
| 第27回 | 平成19年 | 大阪 | | 岸本 忠三 | 山本研二郎 野田起一郎 北村惣一郎 | 堀 正二 | 25,274 |
| 第28回 | 平成23年 | 東京 | 天皇陛下 (おことば※) | 矢崎 義雄 | 小川 秀興 開原 成允 鈴木 聰男 | 永井 良三 | 登録・参加者 21,962 (内特別企画 3,006) |
| 第29回 | 平成27年 | 関西 | | 井村 裕夫 | 本庶 佑 山岸 久一 平野 俊夫 高井 義美 森 洋一 | 三嶋 理晃 | |

※学術講演DVDに文書によりおことばを収載

会場と会期

会期 2015年4月11日(土)~4月13日(月) 国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、 京都大学百周年時計台記念館、京都大学医学部芝蘭会館 会場 学術講演 「医学と医療の革新を目指して一健康社会を共に生きるきずなの構築一」の 内容 メインテーマに基づいた学術講演プログラムを企画編成いたします 会期 2015年4月10日(金)~4月13日(月) 2 会場 京都市勧棄館「みやこめっせ」、国立京都国際会館 学術展示 内容 医学・医療関係者に最新の医療技術と情報サービスなどを紹介する展示 会期 2015年3月28日(土)~4月5日(日) 会場 神戸国際展示場ほか 公開展示 内容 一般社会に医学・医療を理解していただくための情報を発信・提供する展示 会期 2015年2月11日(水・祝)~4月12日(日) 会場 京都大学総合博物館 医学史展 内容 一般市民に医学史・医学教育史を紹介する展覧会 会期 2015年4月4日(土)~4月12日(日) 5 会場 京都劇場、メルバルク京都 他京都駅周辺

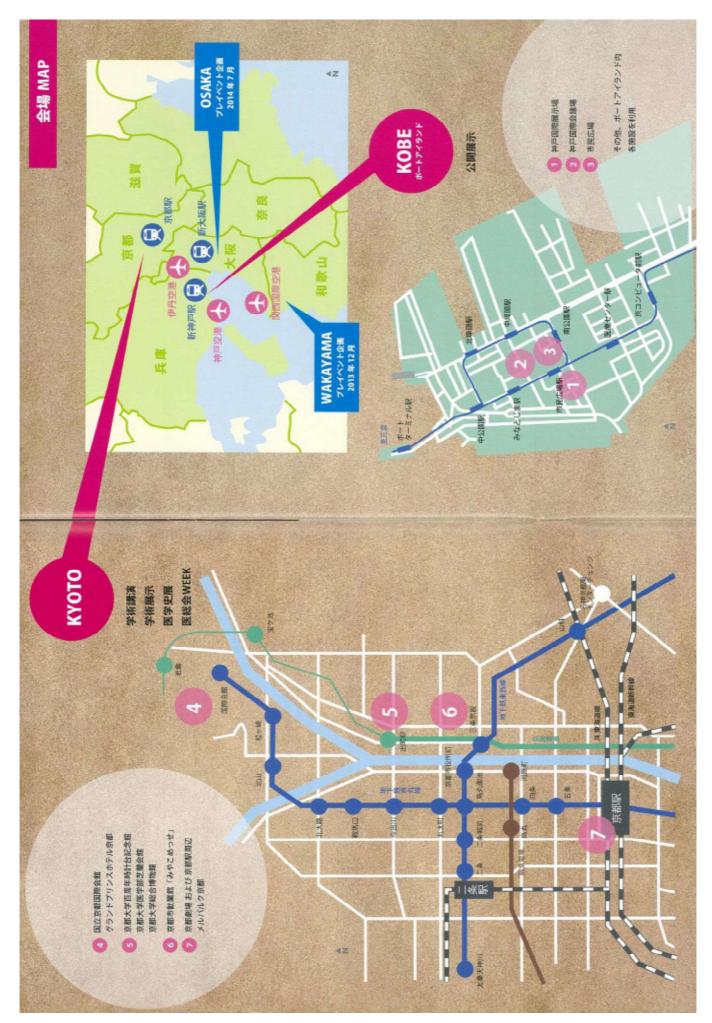
日程

医学会総会開催意義の市民向けの啓蒙、告知

医総会WEEK

内容

| 2015 2 | 拝 (平成 27 年) | 式典 | 学術講演 | 学術展示 | 公開展示 | 医学史展 | 医総会WEEK |
|--------|--------------------|-----|------|------|------|------|---------|
| 2月 | 11 日 (水·祝) | | | | | | |
| 3月 | 28日 (±) | | | | | | |
| | 29日(日) | | | | | | |
| | 30日 (月) | | | | | | |
| | 31日 (火) | | | | | | |
| 4月 | 1日 (水) | | | | | | |
| | 2日 (木) | | | | | | |
| | 3日(金) | | | | | | |
| | 4日(±) | | | | | | |
| | 5日(目) | | | | | | |
| | 6日 (月) | | | | | | |
| | 7日 (火) | | | | | | |
| | 8日 (水) | | | | | | |
| | 9日 (木) | | | | | | |
| | 10日(金) | | | | | | |
| | 11日(±) | 開会式 | | | | | |
| | 12日(日) | | | | | | |
| | 13日 (月) | 開会式 | | | | | |





医学

グトランスレーション科学の振興

再生医学と再生医療、がん研究と創薬、自己免疫疾患と生物製剤など、我 が国の基礎研究の強みを活かしていかにトランスレーションを進めて行 くべきかを規制当局、産学連携のあり方などの視点から議論する。

- 2 1 医療開発に不可欠な産学連携
- ≥ 2 ここまで来た! 臨床応用を支えていく科学の進歩
- ▲ 3 チームワークが重要!臨床応用研究のサポート体制の整備
- ≥≤4 こんなに進んでいる!トランスレーショナル研究の事例

// 臨床研究の推進

我が国の臨床研究の遅れは深刻な問題であり、新薬や再生医療の治験 も遅々としてすすまない現状である。大学での臨床研究に関する教育、 生物統計家の育成や制度的問題、研究費や研究成果の評価の問題について議論する。

- 再生医療が世界を変える
- 全両2 新薬開発の先に見えてくるもの
- ☆ 3 がん免疫療法は輝かしい新治療法になり得るか
- ★本本 新薬開発競争を打ち勝つためにわが国に求められているもの

先制医療(個の視点からの予防医学)

遺伝素因やエピ・ゲノム、バイオマーカーを用いた発症前診断、発症前介 入により、未然に疾患の発症を防ぐ、あるいは遅らせるといった「個の視 点」をもった予防医学をどのように推進していくかを議論する。

- 健康長寿100歳を目指して ─ 先制医療の取組み
- ≥ 2 未来の健康を創造する 先制医療入門
- 先制医療とそれをささえる技術・解析手法

海生医療

IPS/ES細胞の基礎研究の発展を踏まえ、再生医療の時代が幕を開けよう としている。その最先端と将来像、また現状の問題点等について議論す る。

- ≦ iPS細胞が開いた新しい生命倫理の扉
- 3 多能性幹細胞研究の最前線
- 全面3 幹細胞なしの再生医療 ―培養液による臓器再生―
- ☆ 4 幹細胞からの臓器形成研究の最前線と課題

シリハビリテーションのこれから

近年進捗著しい科学的根拠に基づいたリハビリテーション医学の基礎 及び臨床研究成果を踏まえ、今後のあり方、進め方について議論する。

- ☑ リハビリテーションは進化する:『守る』から『攻める』へ
- ■2 運動器リハビリテーションのこれから(進歩と展望)
- 会高3 新しい時代の心臓リハビリテーション:エビデンスと実際
- ☆ 4 有効な中枢性運動麻痺治療方法

環境変化と健康

人の生活により生じた汚染物質や騒音、あるいは地球温暖化、自然生態 系の破壊やオゾン層破壊といった地球環境の変化が、人間の健康に与え る影響について、喘息、アレルギー、発癌、感染症など幅広い分野の疾患 で議論する。

- 地球規模での環境汚染の未然防止の取り組み: サンブルバンクの有用性と今後
- ▲ 私たちを取り巻く環境の変化と健康影響: 地域規模から地球規模まで
- ☆ 3 放射線被曝の健康影響と福島の課題
- ☆☆4 健康格差社会の是正を目指して

/サイエンスからみた心の問題・心の発達

「心」はどこまで科学で解明されたのか、心の発達の最新科学に加え、社 会環境の変化によって生じた新型うつ病などの心の病、いじめや犯罪心 理、自殺問題等について幅広く取り上げ議論する。

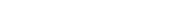
- ② ひとのこころはどのように作られたか?
- ≥ 2 こころを画像化する
- 認知症の最新情報とその対策
- ☆☆4 自殺予防に向けて医療にできること

基礎医学からの提案

基礎医学における二光子レーザー顕微鏡の進展や癌診断における分子 イメージングなど、現代医学の最先端の内容を取り上げ議論する。 形を見る、機能を知る:

最先端の構造生物学とライフサイエンス

- ☆ 2 インフルエンザとの対決:研究開発のフロンティアから
- ☆ 3 がんの克服への基礎医学の挑戦
- 2014 脳はここまでわかった



医療

49

日本の医療・介護制度を考える

少子高齢化を迎えた我が国において、どのように持続可能な医療、介護 体制を築いていくべきかを 国民皆保険制度の崩壊、混合診療や医療費、 介護費の増大に対する対策等の視点から、厚生労働省、医師会、当事者 等を交えて広く議論する。

- 2025年の医療提供体制へ向けた長期計画
- 2014年診療報酬改定と 2015年介護保険改訂を受けて
- ○○3 認知症の介護を考える

医療技術の評価と医療資源の配分

高度先進医療(再生医療、遺伝子治療、がん治療、医療機器開発)の費用対 効果に加え、胃瘻などの既存の医療技術についてもアウトカム、QOLに対す る効果、費用対効果などを検討する。その上で限られた医療資源の適正な配 分について議論する。EBMから一歩進んだCER(comparative effectiveness research) (有効性の比較効用研究)という概念の普及を目指す。

- 限りある財政資源の中でどのように費用対効果を考え、 質の高い医療を存続していくか?
- 112 「エビデンスに基づく医療」で最も高い根拠となる 系統的レビュー、その最前線
- ☆ 3 未来に向けた医療の評価−若手研究者たちの挑戦

医療とIT(情報技術)

電子カルテ、モバイルデバイスの導入による医療提供体制の変化(遠隔 地医療、地域医療連携等)や electronic health record (EHR)の構築、ロボット医療等、医療のIT化がもたらす未来について議論する。

- ◎ 医療とIT~近未来の医療はこう変わる~
- 2 ロポットがもたらす手術療法のパラダイムシフト
- 1T外科の最前線:低侵襲手術を支援する3D画像と 臓器立体モデル
- ↓ 1 いつでも、どこでもつながる医療
 ~ITがもたらす新医療インフラ~

周産期・小児医療の課題

医師・看護師等の医療従事者の不足、医療資源の不足、出産年齢の高齢 化等に伴うハイリスク分娩への対応など、厳しい状況におかれている周 産期、小児朋医療の現状と今後の対策について議論する。

- ○○1 予防ワクチンの新時代を迎えて
- 空2 安心して妊娠・出産・子育てができる環境を
- ☆☆3 新たな出生前および出生後の診断について

在宅医療を含んだ慢性期医療

- 慢性期患者の医療に関する問題点や取り組み等について、例えば急性期 病院と地域医療機関との地域連携や在宅復帰とそれに必要な支援の方 法、在宅治療にともなう諸問題、疫養病床での医療のあり方などについ ア総論する。
- 基礎疾患の異なる個々の患者に最適な具体的支援策とは
- 医療者中心の「医療連携」から患者中心の「生活連携」へ
- 自分らしく生活できる新しい日本の在宅医療をめざして

グローバルヘルス

保健医療問題が国境を越えて拡がることが多くなってきており、感染症、糖尿病などの疾病の国際化、さらに母子保健、栄養不足問題、難民の保健問題など、発展途上国、工業国にかかわらず保健医療の地球的規模の問題が発生し、健康格差が生じている。これらとともに、TPPに参加した場合の日本の医療の国際化から生じるメディカルツーリズムなどの諸問題についても議論する。

- 国際化社会における在外邦人と在日外国人の医療と 健康危機管理
- △ 2 グローバル化する生活習慣病の脅威
- TPPへの参加で日本の医療は変わるか?
- △ 4 グローバル化による感染症の変化にどう対応するか?

きずな

対率的な医療人養成制度

いかにして総合医、専門医、また、リーダーとなる人材を効率的に育成するか、さらにはいかにphysician scientistや基礎医学者、社会医学者などを育成するかといった問題について、卒前教育のあり方や、医師国家試験のあり方などを交えて議論する。

- ☆ 1 国際基準による認証評価に対応した医学教育改革
- 並■2 女性も男性も質の高い働き方ができる時代をめざして
- 基礎医学者、Physician Scientist育成、 MD、PhDコースについて
- 全番4 専門医制度と時代にマッチした生涯教育制度
- ≥ a5 多職種連携教育(IPE)の理論と実践について

· / 死生学(終末医療、臓器移植、緩和医療)

多くの人が長寿を享受できる現状だからこそ、生きるとはどういうことか を考える。終末期医療の問題、生殖医学や移植医学と生命倫理の問題、 また「死をどうとらえるか」という問題について議論する。

- がんと診断された時からの緩和ケアってなんだろう ーその実践のために必要とされることー
- 金面2 超高齢社会における終末期医療を考える
- 並高3 わが国の脳死臓器移植のあゆみと今後の展望

注】学生企画

医学部/養学部/看護学部の学生が共同し、「学部横断」そして「学校横断」 で、学生の視点からみた医学教育の問題点、医療全体の将来、希望など について議論する。

- ◎61 医学教育のもう一つの主役:地域医療機関との連携
- ⓒ 2 医療チーム 学生フォーラム | 〜医療技術の評価/医療人養成制度〜
- ☆ 図療チーム 学生フォーラム II ~ 医療とIT/医療制度~
- 金重4 医療チーム 学生フォーラム III ~死生学/在宅医療~
- ☆≥5 医療チーム 学生フォーラム まとめ

柱と震災に学ぶ

東日本大震災から4年たち、日本の医療体制はどう変わったのかを検証 する。厚生労働省、地方自治体、そして被災地からの報告をもとに、現状 の問題点・今後の展望を議論する。

- ☆ 1 2011年東日本大震災の検証
- ☆■2 震災後の東北地方の医療再建
- № 3 阪神淡路大震災と東日本大震災の経験から見る 南海トラフ地震への備え

生んチーム医療の新しい展開

医療とは他職種の連携、バートナーシップのもとに成り立つものであり、 医学研究にも工学、薬学をはじめとする近接した他の領域の専門家との 連携が不可欠である。あるべき連携の姿、また現状について議論する。

- ☆■ これまでのチーム医療、これからのチーム医療
- ☆ 2 チームで取組む新しい医療:多職種による連携
- 企画3 医・薬・工学の連携が生み出す未来のサイエンス

学之移行医療(transitionalmedicine)

小児期発症疾患(小児てんかん、筋ジストロフィー、先天性心疾患、アトピー、発達障害など)などについて生涯を通じてどのようにフォローアップしていくべきかを議論する。さらに発展して、「electronic health record」をいかに構築するか、また、これらの医療情報を医学・医療研究に活用するための環境をいかに整えるかについても議論する。

- ☆ 1 移行医療: 周産期・小児から成人へ
- ▲ 直記 全 自閉症スペクトラム障害のライフステージと医療支援
- ☆ 3 てんかんのよりよい移行医療をめざして
- ☆ 4 筋ジストロフィーの長期の医療と教育
- ☆■5 さまざまな移行医療





学術講演 特別プログラム

2015年 4月11日(土)午前

開会講演

京都大学 iPS細胞研究所 所長·教授 山中 伸弥



会頭講演

第29回日本医学会総会 2015 関西 会頭 井村 裕夫



日本医師会会長講演

日本医師会長 横倉 義武



2015年 4月11日(土)午後

日本医学会会長講演

日本医学会長 **高久 史麿**



2015年 4月13日(月)午後

記念講演

一般財団法人 聖路加国際メディカルセンター 理事長 **日野原 重明**



閉会講演

京セラ株式会社 名誉会長 稲盛 和夫



一般公開展示

健康社会をつくる最新の医学・医療の成果と未来を体験していただきます。



■メイン会場―神戸国際展示場



■サテライト会場

〇ヘルスケア グルメ

神戸発の新しい健康グルメが集合

神戸を代表するレストランや食品メーカーが 神戸ならではの健康メニューを開発し出店 販売。



災害・救急医療展示

救急車、消防車などの 実物展示に加え、AED などの災害・緊急時の デモンストレーション に参加体験できます。



■ポートアイランドサイエンスツアー

ポートアイランドの医学・医療の先端科学技術 施設を巡るツアー

